５月 の 園だより

令和７年５月　富田林市立錦郡幼稚園

自ら『考える』こどもたち
～　教え込まずに、まずは観察　～

５月になりました。園庭の緑も『うれしそうに』濃さを増し、空には鯉のぼりの家族が『おもしろそうに』泳いでいます。こどもたちも職員も『たのしそうに』過ごしています。そんな中、ビオトープの生き物にも、すごい変化が見られました。

先日の朝のことです。「ビオトープに『カイジュウ』がいるよ！」ある子が驚きの大発見をしました。「どうしたの！」多くのこどもたちが池の周りに集まり、その姿を見つめます。誰かが「これ『セミ』の抜け殻やな」とつぶやきました。「でも、『セミ』(の抜け殻)やったら、木にくっついているでぇ」と別の誰かが反応しました。「これ、大きな『アリ』みたいだあ」確かに『アリ』と似ています。「背中に穴が開いてる」「ここ(背中)から出て、飛んで行ったんや」「そしたら、『チョウチョウ』かな？」虫取り網と虫かごを用意したそら組(5歳児)の数人のこどもたちは、園庭を駆けていきます。「もう(『チョウチョウ』は)おらんな」戻ってきて、網を伸ばして『カイジュウ』を見事ゲット！そのまま、ほし組(3歳児)はな組(4歳児)のこどもたちに見せてくれていました。

おとなのみなさんは、すぐに『ヤゴ』とわかりますよね？！　そして「この抜け殻は『トンボ』の赤ちゃんで『ヤゴ』という名前で、体の中で『トンボ』になって、背中を破って外に出て、空に飛んでいくんだよ」なんて、矢継ぎ早に持てる知識をこどもに教え込んでしまいませんか。こどもたちは「・・・」。ここで話は終わっちゃう。

こどもたちは、仲間と一緒に遊びながら、さまざまなことを自ら考えます。この自ら『考える』こと自体が、幼児期のこどもたちの脳を心地よく刺激し、発達を促します。更に「何故だろう？」「どうなっているんだろう？」という探究心がどんどん膨らみ、これが小学校以降の学ぶ意欲にも着実に繋がっていきます。一方、教え込まれて育ってきたこどもたちは、自ら考え自ら表現することが苦手となり、自ら学ぼうとする意欲が湧いて来なくなります。これらのことは、本やインターネットなどの情報だけでなく、幼稚園そして小学校で実際に体験した、まさに実態であり実感なのです。

上の事からも、今後とも『にしこおり幼・小９か年一貫教育』を推進し、地域のこどもたちを、地域のみなさんと一緒に、地域で心豊かに育てていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

『毎日ひとつチャレンジしよう！』(Every　Day　One　Challenge)

園長　塩野　義和